

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12604

研究課題名（和文）ジェンダークオータの政治学—制度化と抵抗

研究課題名（英文）Politics of Gender Quota: Institutionalization or Backlash?

研究代表者

申 キヨン（SHIN, Ki-young）

お茶の水女子大学・ジェンダー研究所・教授

研究者番号：00514291

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、議会のジェンダー公平な代表性を確保するために導入されたジェンダー・クオータ（女性候補者割当制）の効果とその制度が女性の政治的代表性に及ぼす影響を韓国の事例より分析した。過去20年間の選挙データや男女議員に対する独自のアンケートの調査、そして政党や議員への聞き取り調査を実施した。韓国のクオータ制は小選挙区・比例代表制の両方に適応されるが、法的拘束力のない小選挙区のクオータはほとんど守られておらず、クオータ制に対する抵抗も根強い。議会に進出した女性議員は数的に少数であることに加え、政党間の力不均衡によって「女性の政治代表」としての政策を実現させることにも困難があることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はクオータが実施された以降もクオータ制が十分な効果を発揮できない原因を学術的に解明した点で大きな意義がある。女性の政治参画の壁は政治に参加する前のみ存在するのではなく、クオータが実施されて女性議員が増えても存在する。本研究は「クオータの導入」と「制度的定着」を理論的に区別し、「定着の諸条件」を明らかにすることで、クオータ・バックラッシュにも注目しつつ、これまで議論されてこなかったクオータ制導入後に続く女性の政治的代表性の障壁を明らかにした。今後日本でもクオータ制を導入する際に考慮すべきことは何かについても、実践的な知見を与えられる。

研究成果の概要（英文）：This research analyzes the effects of electoral gender quotas introduced to ensure gender equal representation in parliament and the impact of gender quotas on women's political representation from the case of South Korea. I conducted a survey of electoral data over the past 20 years, an original survey of male and female lawmakers as well as interviews with political parties and lawmakers. While South Korea's quota laws are deemed to apply to both single-seat constituencies and proportional representation systems, parties have not complied with quotas for single-seat constituencies because those quotas are not legally mandatory. In addition to the fact that the number of female legislators who have entered parliament via quota is small, sharp partisan interests and the power imbalance between political parties make it difficult for female legislators to realize the policies to represent feminist and women's interests.

研究分野：東アジア比較政治学、ジェンダーと政治、女性の政治的代表性

キーワード：クオータ 女性の政治的代表性 韓国 政党 候補者選定

1. 研究開始当初の背景

男性が圧倒的に多数を占める議会は、性別の偏りによって意思決定の過程に多様な民意が反映されにくい。1990年代から諸外国では、社会の多様な声を議会に反映させる方法として、(女性)候補者クオータ制を導入し、約130カ国で様々な形態のクオータ制度が実施されている。韓国も2004年に国政選挙にクオータ制(韓国では「女性候補者割当制」と称している)を導入し、研究開始当初まで4回の国政選挙でクオータ制を適用した。しかし、導入直後に女性議員が5%から13%へと2倍以上増えたものの、その後の3回の総選挙では、女性議員の比率がわずか4%増加しただけで17%にとどまっていた。研究期間中に実施した2020年の総選挙でも女性議員はわずかしか増えず、未だに20%を下回る。その直接的な原因は、小選挙区のクオータがほとんど守られていないことにある。ちなみに、クオータ制度が導入されたにもかかわらず、政党はクオータを真剣に遵守しようとなしなかった。むしろクオータ制に対する批判は強まっている。なぜ、クオータ制は15年も実施したのに制度として定着しなかったのか、また、クオータで当選した女性議員はなぜさらなる女性議員の増加につながらないのか、クオータは女性の政治的代表性にどのような影響を及ぼしているのか。これらの疑問は学術的にも検証する必要が浮かび上がっていた。

2. 研究の目的

本研究は、議会のジェンダー公平な代表性を確保するために導入されたジェンダー・クオータ(女性候補者割当制)の効果とその制度が女性の政治的代表性に及ぼす影響を韓国の事例より分析するものである。韓国は、2000年代前半から女性議員を増やすために政党の候補者の一定割合を女性に当てるクオータ制度を導入した。しかし、クオータが実施されて15年が経た現在も女性議員は20%に至らず、現行クオータ制度に疑問が呈されていた。先行研究では、クオータ制度が効果を出せない理由の一つに、議会の男性優位性が脅かされることへの抵抗、すなわち、クオータ・バックラッシュが指摘されている。本研究は、クオータ制が導入された以降20年間の政党別選挙データ及び政党関係者や女性議員への聞き取り調査を通じて、クオータ制度の実施状況、クオータで当選した女性議員のキャリアパス及び議会活動を分析し、韓国でクオータ制度が十分な効果を発揮できない原因を解明することを目的とした。

本研究はこうした問いに取り組むことで、「クオータの導入」と「制度的定着」を理論的に区別し、「定着の諸条件」を明らかにすることで、クオータ・バックラッシュにも注目しつつ、これまで議論されてこなかったクオータ制導入後も続く女性の政治的代表性の改善の壁を解明することを目的とした。

3. 研究の方法

候補者リクルートメント過程におけるジェンダー・クオータの運用実態

クオータ制度が整えられた2004年以降、2004、2008、2012、2016、2020年の総選挙において各政党はクオータ制度をどのように実施したのか、その実態を調べた。下記の韓国のクオータ制度の運用を調べてその特徴を分析した。

- 比例名簿の奇数(定数47、全国統一拘束名簿式、各順番には候補者一人)を女性にする
- 小選挙区候補者(定数253)の30%を女性にする
- 女性候補者の育成のために政党助成金の10%を女性関連事業に充当
- 小選挙区に女性候補者を公認した場合、その人数に比例して女性候補推薦補助金を配分

クオータ制度を通じて当選した女性議員の議会活動の分析

クオータ制度で当選した女性議員は能力や経歴などの一般的な基準に照らしてみると男性議員と同等、あるいは、むしろ上回ると指摘されている。また、女性議員が増えると、政党や議会の指導的ポジションに女性が就く場合が増え、女性議員への偏見が減少し、さらなる女性議員の増加につながるとされる。しかし、韓国で女性議員が過去20年間20%未満の水準にとどまっているのは、先行研究が挙げるクオータ制度のポジティブな効果がほとんど発揮されていないことではなからうか。その理由を明らかにするためには、クオータで当選した女性議員がその後どのようなキャリアパスを辿っているのか、また議会でどのような法案を提案して議論しているのかを解明する必要がある。そのために、女性議員のキャリアパスを分類し、どのような女性議員がどのようなキャリアを積んでいくのかを資料や女性議員へのインタビューを通じて政党別、

属性別に分析した。

4. 研究成果

過去 20 年間の選挙データや男女議員に対する独自のアンケートの調査、そして政党や議員への聞き取り調査を実施して次のことが明らかになった。

- 1) 韓国のクォータ制は小選挙区・比例代表制の両方に適応されるが、法的拘束力のない小選挙区のクォータはほとんど守られておらず、小選挙区にクォータを適用することに対して党内の抵抗が根強い。各政党は党憲、党規に独自のクォータ規定を設けたり、女性の候補者を増やすために女性候補者に加算点を付与するなどの取り組みを試みたりしたが、党内の反発に遭って続かないケースがほとんどであった。
- 2) クォータを守らせるために、政党に金銭的なインセンティブを与える方法も設けられているが、政党はその制度を無効化するような法改正を繰り返し、女性候補者を増やす効果はあまりなかった。結果的に、法的に強制されていないルールは覆されやすく、制度として定着されないことが分かった。
- 3) 議会に進出した女性議員は数的に少数であることに加え、政党間の力不均等によって「女性の政治代表」としての政策を実現させることにも困難があることが明らかになった。クォータ制は小選挙区で勝ちにくい少数政党の場合により女性議員を当選させる手段として強力であるが、彼女らは議会では少数であるがゆえに、政策を通せるほどの力を持っておらず、女性の政治代表性を高められるクォータ制の潜在的な効果は限定的であった。
- 4) 独自のアンケート調査からはクォータ制に対する男女国会議員の意識は大きく異なり、女性の方が男性議員よりクォータ制に賛成する傾向が明確であり、女性議員に対する評価も高かった。男性の場合には意見が広く分散されており、中では女性議員に対する偏見やクォータへの反対意見も根強く存在することが明らかになった。

なお、研究成果は、研究論文が 6 本（うち英語論文が 2 本、査読付き論文が 4 本）、専門書の一章（英語）、国際学会報告 1 件（英語）、国際シンポジウム報告 4 件（英語）、国内シンポジウム報告 1 件で発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 SHIN, Ki-young | 4. 巻 17(3) |
| 2. 論文標題 Beyond #WithYou: The New Generation of Feminists and the #MeToo Movement in South Korea | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Politics & Gender | 6. 最初と最後の頁 507-513 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S1743923X2100026X | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 申琪榮 | 4. 巻 946 |
| 2. 論文標題 「政治とお金」のジェンダー格差—女性を阻む政治資金問題の解消へ | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 世界 | 6. 最初と最後の頁 182-188 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Shin, Ki-young | 4. 巻 11(3) |
| 2. 論文標題 From Gender Quotas to Gender Parity in Legislatures（韓国語） | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 梨花ジェンダー法学（韓国） | 6. 最初と最後の頁 207-243 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.22791/ewhagl.2019.11.3.007 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 Cowell-Meyers, Kimberly, Elizabeth Evans, Ki-young Shin | 4. 巻 16 |
| 2. 論文標題 Women's Parties: A New Party Family | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Politics & Gender | 6. 最初と最後の頁 4-25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S1743923X19000588 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 申琪榮 | 4. 巻 28 |
| 2. 論文標題 半分の成功 韓国のクォータ制からの示唆 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 学術の動向 | 6. 最初と最後の頁 48-52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 Ki-young Shin and Soo Hyun Kwon | 4. 巻 44 |
| 2. 論文標題 It's Money that Matters in the End: The Impact of Gender-targeted Public Funding on Political Parties and Women Candidates in South Korea | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 International Political Science Review | 6. 最初と最後の頁 91-106 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/01925121221078232 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 申琪榮 |
| 2. 発表標題 韓国からの示唆 |
| 3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「女性の政治参画をどう進めるか？」(招待講演) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Shin, Ki-young and Chang-ling Hwang |
| 2. 発表標題 Who Opposes Quota and Why?: Survey Analysis of Korean and Taiwanese National Legislators |
| 3. 学会等名 European Conference on Politics and Gender (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Shin, Ki-young and Soo-hyun Kwon |
| 2. 発表標題 Gender-based Public Funding for Political Parties: Why Doesn't It Work in South Korea? |
| 3. 学会等名 Research Workshop on Gender and Financial Cost of Elected Office Worldwide (Bergen University, Norway) (招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Shin, Ki-young |
| 2. 発表標題 Who Support Gender Quotas in South Korea? |
| 3. 学会等名 International Symposium Gender and Political Representation in East Asia (招待講演) |
| 4. 発表年 2023年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Devin K. Joshi, Christian Echle | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 Routledge | 5. 総ページ数 294 |
| 3. 書名 Substantive Representation of Women in Asian Parliaments | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
| | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| | |
|---|--------------------|
| 国際研究集会 East Asian Research Network on Gender and Diversity in Political Representation | 開催年 2019年～2023年 |
|---|--------------------|

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|----------|----------------------------|------------------------------------|--|--|
| 韓国 | Sogang University | Korea Women's Political Solidarity | | |
| ノルウェー | Bergen University | | | |
| その他の国・地域 | National Taiwan University | Taiwan Chengji University | | |